

東京女子大学

理事長 原田明夫 殿

学 長 湊 晶子 殿

2007年6月24日

要望書取り纏め世話役
武蔵野市
川 田 伸 紘

東京女子大学東寮・体育館建築物についての要望書

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この程貴学におかれましては「キャンパス整備計画」に伴い貴学構内所在の現存9棟のレーモンド設計建築群の一部（東寮・体育館の2棟）が解体されるとのことで、この7月末頃にも工事が着手されると伝え聞いています。

そのような逼迫した状況に鑑みて、建築に携わる者としての要望を申し上げますさせていただきます。

チェコ生まれのアメリカ人建築家レーモンドのわが国現代建築における優れた業績と影響は申し上げるまでもありません。中でもそれらレーモンド設計の建築物が群を為して実在し、かつそれらの殆どが実際に利用されている建築物として息吹いており、優れた景観を構成しているという意味では、貴学構内におけるこれら一連の建築群をおいて他に類例が見られません。

貴学としても如何に整備計画を推進されるためとは言え、その解体への決断に至るには当然のことながら多くのためらいがあり、忸怩たる思いを抱いてのことと推察に堪えません。そのことは貴学作成のリーフレットにも例えば東寮については「日本初の女子個室寮です。震災前に建てられたコンクリート造りとして貴重な建物で、レーモンド建築のチェコ・キュビズムを色濃くしています。」と明記されていることから伺い知れます。

保存を願う多くの声が貴学の内外からも聞かれますし、日本建築学会や日本建築家協会の方々、ドコモ・ジャパンなどの団体からもそのような要望書が出されています。

ひとたび解体してしまえば、後にこれの価値や意義をいくら唱えてももはや取り返しのつくところではありません。

私たちとしてはそれらの建築物の歴史的文化的意義を認めるものであり、可能であるならばそれらの保存をも願うところではありますが、少なくとも解体工事着手を一時一定期間延期して、それに取り掛かる前にそれらの何らかの保存の可能性を含め、広く叡智を募りより望ましいあり方とその方策を是非とも探っていただきたいと別紙賛同者名簿を添付してこれを要望するものです。

末尾ながら、そのような折には可能な限りの協力を惜しむものではありません。

敬具